

「1月6日の部分日食観察(1)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

部分月食が起きた1月6日は、冬休み中の日曜日ので、子どもにとっても大人にとっても、観望には絶好の機会だった。南岸低気圧の接近が予報されていたが、比較的南よりを通過したので、東京の天気にはあまり影響がなかった。



文京区では、朝からよく晴れて、私が観望した「教育の森公園」(筑波大学附属小学校の南側)には、大勢の人が集まっていた。本校の児童も来ていた。冬至からあまり日が経っていないので、太陽高度は低い。太陽は、東側にあるマンションの上に見えた。



午前8:40過ぎ、ついに太陽の右上が欠けだした。「お〜」という顔に似ているので「お〜日食」と呼ぶ。



本校の児童は、手作りの日食グラスを持っている。しかし、その兄弟、お父さんやお母さん、通りすがりの人などは持っていない。私は予備のグラスを100枚ほど用意していたが、全部なくなってしまった。犬まで日食を観察していた。



部分日食はゆっくり進行する。時折薄い雲がかかったが、刻々と欠けていく様子がわかった。